

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度	本年次は、事業開始当初に発生した労働争議及びそれに伴う1年次以来の事務局長（当時）を中心とした不正の発覚、続いてナッケデ及びトゥンバリの2組合による離反問題等が発生したことが事業の実施に多大な影響を及ぼしたことから、多くの活動が計画通り達成に至らなかった、もしくは大幅な変更を余儀なくされた。
(2) 事業内容	1. 環境整備 各組合にトラクター1台を各組合名義で登記し供与。カブンバ協同組合には行政上の要請により雨水集積装置を配備し、日常の用に使用されている。 最貧層の住民が組合加入時に必要な経費の支払い猶予期間を設け、加盟しやすい制度を整えたが、より最貧層住民に対するインセンティブを高める制度への改善、もしくはプログラムの導入を検討している。 各組合にトウモロコシ、豆及び殺虫剤を配布し、収入向上に貢献した。 2. 組合役員・組合役員の能力強化 組合役職員各10人前後に対し、運営能力向上を目的とする6種類の研修を実施した。
(3) 達成された成果	成果1：組合が安定した収入を得るための基盤が整備される。 指標：各組合にトラクター1台を購入、トウモロコシ製粉所1カ所が設置されている。カブンバ協同組合には雨水集積装置が設置されている。各組合の純益が64,465,000 UGXになる。総組合員数が950人（その内最貧困層の住民が400人）以上になる。 達成度：各組合にトラクター1台の購入をし、利用者に益することに加え、いずれの組合にとっても安定した主要な収入源となっている。カブンバ協同組合の雨水集積装置は計画どおりに設置された。他方で、トウモロコシ製粉所に関しては、建設された建物の設計が換気、強度、高さ等が製粉機を導入するためには不適切であったため、製粉所としては使用できないことが判明。各組合で他の用途として使用（養鶏場等）もしくはその利用方法について話し合いが進んでいる。 トウモロコシ・豆の種を各組合の組合員に配布。種の種類が土地に最適なものではなかったこと及び悪天候が続いたことにより、期待よりも収穫が少なく、トウモロコシ・豆の一方が殆ど収穫に至らなかった組合もあるものの、いずれかは一定の収穫となり、収入増加に寄与した。 総組合員数は2020年1月末現在で1,143名に増加した。（最貧層125名を含む）各組合の内訳は下記の通り。（ ）内は昨年完了報告時点。本年次は、ナッケデ及びトゥンバリの2つの組合内における問題が発生したこと等から、最貧層の住民に対する加入の促進を丁寧に実施することが困難であったため、総組合員数は目標達成したものの、最貧層の住民の新規加入は25名のみ（総増加人数は112名）と昨年度と比べ減速することとなった。今後は、同住民層を特別に対象とした識字教育などのワークショップの実施や制度の充実が課題となっている。 ● ナッケデ：284名（264名） ● ルグジ：300名（252名） ● トウンバリ・ルウェンウェデ：254名（258名） ● カブンバ：305名（247名） 4つの協同組合の純益の合計は57,185,629UGX（2020年3月31日のxe為替レート1米ドル＝3,796.26UGXで約15063.67米ドル。）と、2年

次目標金額を 7,279,371UGX (1917.67 米ドル下回った)。

成果 2：組合役職員の組合運営管理能力が向上する。

指標：組合の組織運営体制が確立され、執行役員会のもとに各種小委員会が設置されている。組合関連法規や規約に基づき組織や事業を運営していくためのガイドラインが作成されている。年間事業計画の進捗状況がモニタリングされ必要に応じて修正されている。地方自治体等政府機関の助成金を少なくとも年間 1 つ獲得している。

達成度：4 つの協同組合に対し、6 つの研修（①組織管理、②リスクマネジメント・内部監査、③融資管理、④基礎会計・記録・文書管理、⑤財務分析・計画立案、⑥リーダーシップ・ガバナンス・チーム構築の研修を実施。各組合のキーパーソンを対象を絞り、全組合合同でグループワークも取り入れた密度の高い参加型の研修とすることで、組合間での交流が活性化し最も事業運営が好調な組合に他の組合員から非常に刺激を受けた様子が見られた。また、各自組合の問題を研修テーマ毎に率直に話し合うことにより、融資返済の滞納（不能）問題への対策など、学んだことを基に自分たちで共に考えながら運営改善の糸口を掴むことができたとの反応が得られている。組合関連法規や規約に基づき組織や事業を運営していくためのガイドラインが作成され、運用され始めている。

2 つの組合が、ワキソ県（他 1 県）をパイロットとする内閣府主導の小区域コミュニティ生計向上プログラム（PCA program）において支援対象として選出され、組合を媒介として現在同プログラムの基金を運用している。

成果 3：組合員が収入向上につながるスキルを身に着けている。

指標：識字研修参加者 60%が文字の読み書き、基本的な計算ができ、50%が家計の計画・収支計算ができるようになる。組合員対象に実施された各種研修で身に着けたスキルを組合員 80%が実施している。組合合同会議で共有された他組合の成功例を組合員 60%が実施している。組合を通して組合員が得る総収入が 1,164,340,000UGX になる。

達成度：成人機能識字研修は、1 年次に作成・使用されたテキストやマニュアルが上記労働争議の間に散逸したこと、及び 2 組合の内部問題の收拾のため数カ月間事業に支障が出たことから、取りやめることとなった。

研修対象者の全員が、研修内容を良く理解し各組合に学んだことを持ち帰って実践している。

成果 2 の合同研修を通じて、4 組合のうち 2 組合（50%）が他の組合の成功事業である養鶏業に着手している。

組合を通して組合員が得た総収入は 190,709,157UGX で、目標の 16.4%となった。

「持続可能な開発目標（SDGs）に該当する目標における成果

今期事業においては下記 2 点が SDGs に寄与する成果であると位置づけられる。

目標 2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

2.3 2030 年までに、土地、その他の生産資源や、投入財、知識、金融サービス、市場及び高付加価値化や非農業雇用の機会への確実かつ平等なアクセスの確保などを通じて、女性、先住民、家族農家、牧畜民及び漁業者をはじめとする小規模食料生産者の農業生産性及び所得を倍増させる。

(4) 持続発展性	N連の3年次は実施されないこととなったが、今般運営能力全般をてこ入れした結果、各研修受講者が各組合において活用していきながら一連の研修の中で意識した諸問題を解決・改善していけるよう、また各組合の地理的・能力的特徴及び希望に合わせた収入創出事業をHFWが責任をもって自立に向けて丁寧にバックサポートする。 なお、不正を行った前支部事務局長に対する訴訟提起、及び建設業者に対する責任追及は引き続き行う。